

生活新聞

VOL.2 NO.14

8.31

1982 博報堂社内資料

使途不明金



どこへ消えた？ 家計支出11%の謎

「使途不明金！」……といっても企業犯罪の裏に流れる不正経理金ではない。今回とりあげるのは、直接消費、くらしに関係のある家計簿上の使途不明金（こづかい）のこと。

まず右の表をごらんいただきたい。これは総理府統計局が毎月発表している「家計調査報告」の数字である。昭和56年の勤労者世帯のひと月の平均消費支出額は25万円強である。その内訳の中で今回注目したのが「その他の消費支出」。これはひと月約6万8千円で消費支出全体に占める割合は27%と、食費（27.5%＝エンゲル係数）に匹敵する。さらにその内訳にある「使途不明金」（＝狭義のこづかい）だけをとりあげても11.3%と食料費につく金額となっている。

世の中、「消費の多様化」「経済のサービス化」がいわれているが、年額80万円強の「その他の消費支出

」、34万円の「使途不明金」の内容があきらかにされないと、その実態はつかめないわけだ。

そこで、生活総研では「使途不明金」を追って、「こづかい調査」を実施した。こづかいの実態を追うことによって日常のくらしの断面を明らかにしようという試みだ。

＜余談＞ 総理府統計局も、家計調査のブラックボックスである「使途不明のこづかい」の実態解明に乗りだしている。食料費に次いで2番目に額の大きい項目が使途不明では家計の内容が正確につかめているとはいえない。そこで、とりあえず、7月に試験的に「こづかい帳作戦」を展開、小サンプルのこづかいの内訳記録を集計し、うまくゆけば家計調査に全面的にとり入れることを考えている。

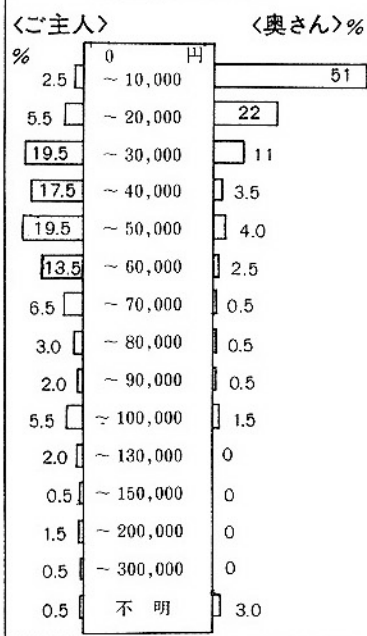
●勤労者世帯1ヶ月の消費支出内訳

(56年平均)

	実 額	構 成 比
消費支出	251,276円	100%
食 料	69,032	27.5
住 居	11,956	4.8
光熱・水道	14,757	5.9
家具・家事用品	10,612	4.2
被服・履物	18,417	7.3
保健・医療	5,909	2.4
交通・通信	22,368	8.9
教 育	9,057	3.6
教養・娯楽	19,668	8.5
その他の消費支出	67,799	27.0
諸雑費	12,152	4.8
使途不明	28,276	* 11.3
交際費	21,811	8.7
仕送り金	5,559	2.2

男52,969円、女18,187円

●ひと月のこづかい



「小買物に、支拂フベキ銭。独り自由ニ遣フベク、子供、雇人ナドニ与フル小銭ヲモ云フ。」(大言海)。「こづかい」の意味をたずねると、①少額であること、②自由に使えること、の2つの側面があるようだ。

今回の調査では、平均的サラリーマン家庭のこづかいは、ご主人52,969円、奥さん18,187円で、月総額71,156円と出た。

さて、左のグラフをみて、おたくのこづかいと比べてほしい。まず、ご主人の方だが、月5万円までの人が大半で約65%、5万円～10万円の人30%となっている。少数ではあるが高額の人、少額の人とも居るが平均的には3万～5万円の間がゾーンとなっている。

一方、奥さんの方だが、大半は1

万円未満であり、2万円までの人で73%を占める。ただし、奥さんのこづかいは、ご主人のとは、ちょっとちがう点がある。「別にこづかいがほしいと思ったことはありません。どうしても欲しかったり、必要なものがあれば、家計費の中から買っても誰にも文句をいわれませんか」(神奈川県Iさん)に代表されるように、家計をあずかる奥さんのこづかいは、「申告」された平均額以外のものが家計費として処理されている部分があることも見落せない。

それにしても、夫婦で年間85万円強のこづかいが支出されている。これを「少額」とみるか、「多額」とみるか。また、支出のされ方には個人としての自由度が、どの程度反映されているか。次にみてみよう。

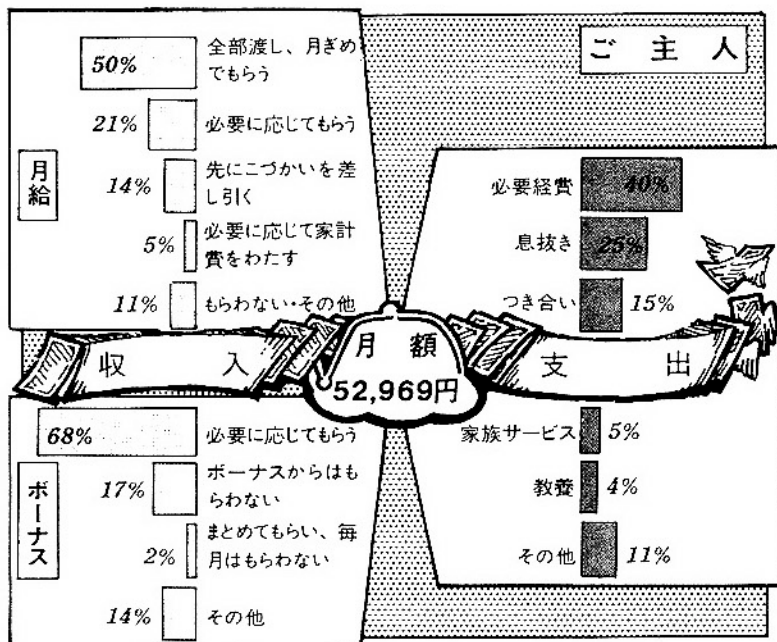
男と女ではこづかいの顔つきがちがう

「月極めこづかい」は生活の顔

＜入り＞ まず、ご主人だが、給与との関係では、全額を奥さんに渡し、定額のこづかいをもらう人が50%と圧倒的。ボーナスのときに必要に応じてもらう人(68%)とあわせてみると、月々の赤字はボーナスで穴めするパターンが一般的だといえる。

月額定額制の人の収支は硬直的だが、毎月必要に応じてもらう人(21%)や先にこづかいを差し引いてから残った分を家計にまわす(14%)、給与を自分で管理し、必要に応じて家計費をわたす人(5%)などは、かなり柔軟にこづかいを使っていると思われる。

＜出＞ 何といっても多いのは、サラリーマンの必要経費40%、その半分は昼食、お茶代で占められている。男にとって欠かせない同僚や友人とのつき合いて使う酒代、食事代が15%で、これだけでこづかいの半分以上が飛ぶ。ほんとのこづかいといえるのは残りの部分で、パチンコ、マ-



ジャン、ゴルフなどの「息抜き費用」が25%。おみやげなどの家族サービスも忘れてはいない。

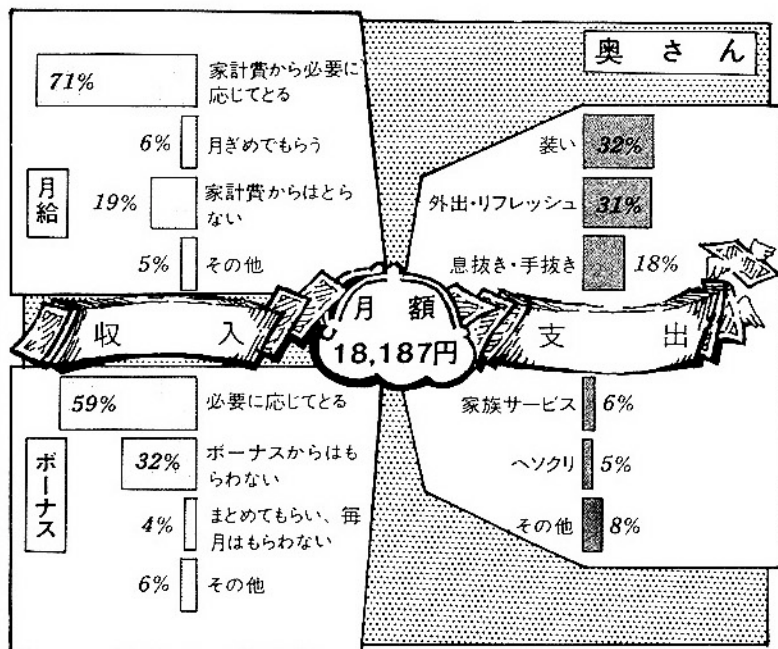
こづかいは女を美しくする

＜入り＞ 一方奥さんの方が、毎月の家計費から必要に応じてとる人

が71%で、毎月、月極めでもらう人(6%)に対して圧倒的に多くを占める。ボーナス時にも必要に応じてとる人が59%と半分以上で、奥さんのこづかいは自由裁量量が高いようだ。考えようによっては、奥さんのこづかいは、家計の中で完全独立していないのだともいえる。いずれにしても、ご主人とはちがった家計を握る奥さんのこづかいの特徴といえよう。

＜出＞ 奥さんのこづかいの顔は、その支出面に出てくる。「外観を装う」被服、身のまわり品、美容代等が32%、スポーツ、稽古ごとなどのおでかけや、時には旅行など、「内面のリフレッシュ費用」が31%をそれぞれ占めている。1人でする食事や図書購入などのちょっとした息抜き、手抜き費用」が18%。ヘソクリ(5%)もおこたりはしない。

ご主人のこづかいが、かなりの部分、サラリーマン必要経費に占められるのに比べて、奥さんのこづかいはハツラツとした顔つきをしている。



成熟型です主婦の外出

「最近、調査がやりにくくなったネー。訪問する家の10軒に4軒は外出中。2度3度通っても、結局、奥さんに会えないことが多くなったのヨ」と、ベテラン調査員が仕事にならないと嘆くほど、主婦のお出かけが増えている。

奥さん達はどこへ出かけているのだろうか。主婦の外出行動とお金の動き(何に、いくら使う)をみることによって新しい市場機会を見出すことができるかもしれない。調査から、いくつかのケースを拾ってみた。

主婦の外出 4Sの時代

主婦のお出かけも、かつてのショッピング中心の消費型外出から、時間消費型、ココロ充足型外出へと様変わりしてきている。伝統的な外出Shopping(買物)

は相変わらず多いものの、これからの外出は下記の4つが多くなりそうだ。これにつれ、家計のサイフからこづかいのサイフへ流れる金も増大しそうだ。

- ① **Study** 学習一家の中のモノが飽和状態になってきたのに加え、低成長、可処分所得のダウンから時間消費型文化に対するニーズが急速に高まっている。
- ② **Sport** - 健康、体力の維持増進効果を求める傾向は今日、強迫観念にさえなっており、主婦の恰好の外出口実となっている。
- ③ **Society** 社交-地縁、血縁、子供の学校縁でもない新しい縁づくり、仲間づくりが求められている。
- ④ **Sex** - Sexに対するタブーの減少につれ、各所で、ごく普通の女性の積極的Sex関連行動、外出がみられるようになってきた。

Study 4,358円(学習)

主婦の学習熱は高まる一方で、各地のカルチャーセンター、おけいごと教室、各種講習会は女々で埋めつくされている。ある評論家が「カルチャーセンターのあの巨大なビルが、女達の欲求不満のエネルギーで爆発してしまいそうだ」といっているが、台所の片隅から日の当たる場所に主婦が躍り出てきた。

今回の調査からも、この1年間に各種おけいごとをした人24%、カルチャーセンター、通信教育を受けている人各3%と学習する主婦は多い。この主婦の学習熱について、朝日カルチャーセンター緒方正一広報室長は「ここにお集まりになる皆さんは、時間を漫然と費やすのは人生のロスだと、充実した生活、一生を通じての生きがい求めにいらっしゃるようです」。学びのお出かけ、ココロと胃袋を満たし4,358円也(月謝は除く)



Study 6,079円(観劇・鑑賞)

この春、話題を呼んだ東京・日本橋高島屋で開かれた東山魁夷の「唐招提寺全障壁画展」は連日、女性の大軍が押しかけ、1日平均1万人、多い日には2万7千人の人出。8階の催し場から地下2階、地下鉄の構内まで入場券を求める列が続いたという。今や、デパートに限らず、美術展に集まる人の8割強が女性で、美術展は主婦でもつといても過言ではないようだ。

この1年間に、デパートの美術催事に出かけた人42%、映画37%、演劇30%、音楽会18%、美術館17%、博物館8%と文化催事に出かける主婦は多い。一方、各種おけいごと発表会も盛んで、ご祝儀としてのプレゼント市場も見逃せない。文化の香り高い各種催事へ仲間同士連れ立っての外出は奥様の美容ファッションにも大きな影響を与えよう。この費用6,079円也。



(注) 上図は、外出時の支出項目と、それを行った人の平均支出金額を示している。

女のお出かけ

Sport 1,954円

ヨガ、ジャズダンス、エアロビクスと流行は目紛しく変化したが、ともかく主婦のスポーツ熱は高まる一方だ。

今回の調査でも、最近特に力を入れていることに、スポーツ健康づくりをあげる人が多かった。各種スポーツ施設に出かける主婦が多い。この1年間にプールを利用した人21%、スイミングスクール・クラブ、アスレチッククラブ各8%、テニス教室・クラブ、ゴルフ練習場各7%、ジャズダンス、ヨガ各4%

主婦のスポーツ外出で潤うのは外食産業。スポーツクラブは「スポーツをする楽しみと同時に、生活水準が同レベルの人の社交の場を提供する」ものであり、運動後の気楽なおしゃべりと食事は欠かせない。ココロと体をリフレッシュして1,954円也。

ただ、男と違って、地場型スポーツが主流を占めていることから、行き帰りの途で潤う商売は少ない。



Society 2,903円(外で) 4,918円(家を訪問)

余暇時間の増大につれ、新しい縁を家の外に求める
ふれあいマーケットが拡大している。カルチャーセン

ター、スポーツクラブに集まる人々が求めるものの半分は、この新しい仲間、コミュニティづくりだ。

都内のレストランでも、この3、4年、30代半ばから40代ぐらいの女性のグループ連れが目立って増

えてきたという。外でのおしゃべりとなると飲食は欠かせないが「皆さん、派手にお使いになってますね。結構いいメニュー（高い）で、ビールをお飲みになってます。男の方々と比べると贅沢ですね」この費用2,903円。

また、知人、友人宅訪問には手みやげが欠かせない。プライベートなギフトでは、相手の家庭状況や好みに合わせた、中身の濃いものを選ぶ傾向が強まっている。今回の調査では全員が手みやげを持参していた。



Sex ? 田

今回の調査からは、主婦のSex関連外出はほとんど認められなかったものの、これからの動きとしては無視できない。

ファッションポルノとも言われた英国映画「チャタレイ夫人の恋人」が中年女性客を集めている。客の半分が30代後半から50歳前後の中年女性、特に昼前後の上映は、そのほとんどが中年のグループ客で占められているという。これは問題の文学作品の映画化ときれいな映像ということで話題をよんだのであろうが、昼日中、主婦が大挙してポルノ映画に押し寄せる…! /

他方、ラブホテルでも女性客の動きは見逃せない。利用者の5組に1組は、女性のサイフから金が支払われている。ラブホテルの専門誌「ラブスペース」の菊地氏も、最近、特に女性向け趣向をいろいろ贅すようになってきていると指摘している。



いまだに高度成長期型です亭主の外出

D. ガボールは、成熟社会とは「人口および物質的 表わされる。

消費の成長には飽きて、生活の質 (Quality Life) を成長させることは諦めない社会」と定義している。主婦の外出行動は、まさにこの成熟社会を地で行くものであるが、男はとみると、あいかわらず高度成長期型外出パターンを踏襲している。

男の外出は相変わらず 3S+1G

我国のレジャー活動は、多様化、時間消費型、活動型、創造・学習型へ移行してきているが、その中で中年男性の外出は相変わらず消費型のパターンを示している。さて、この男の外出だが、それは3S+1Gで

- ① Sport-サラリーマンの健康に対する関心の高まりと余暇時間の増大から、スポーツが男のレジャーの中心になろうとしている。
- ② Service 家庭サービス 最近の家事志向を反映して家族ぐるみでのレジャー外出が増えている。家族サービスとしての外出が義務づけられる男性も増大。
- ③ Sex-Sexのオープン化傾向につれ、合法、非合法を問わず、この領域でのニーズ、外出が増えよう。
- ④ Gamble-こづかいの伸び悩み、レジャーの多様化からギャンブル離れが始まっているものの、一攫千金を夢見るギャンブルの魅力は強力だ。

Sport 12,052円

中年サラリーマンのスポーツといえば、まず出てくるのがゴルフ。今回の調査からも、スポーツ関連施設の利用トップ5は①ゴルフ練習場40% ②ゴルフ場36% ③プール32% ④バドミントンセンター13% ⑤テニス、アスレチッククラブ各8%と、ゴルフ関連が多い。このゴルフが男のスポーツ外出を金額の高いものになっている。

ゴルフ外出1回当たりの総費用は、平均17,442円。1ヶ月こづかいの約1/4。最近のビクター料金値上げにつれ、一般サラリーマンにとって「月イチゴルフ」さえ難しくなっている。

ちなみに、こづかいの使い方をみると、ゴルフへ行く人の平均こづかい74,556円、行かない人44,930円。これに対して、1ヶ月の屋食代、ゴルフへ行く人6,520円、行かない人9,059円。粗食に耐えて、屋食費を浮かし、月イチゴルフをする涙の物語？



Sex ?円

こづかいのブラックボックスの最たるもの。今回も金銭面では不明であるが、この1年でのSex関連サービスの利用状況はストリップ劇場5%、ノーパン喫茶4%、トルコプロ4%、ラブホテル・モーテル3%、ポルノ専門映画館3%、ポルノビデオ2%、ヌードスタジオ、ピーピングルーム(覗き部屋)、マントル各1%との回答がよせられた。

Sexのオープン化につれて、合法、非合法を問わず種々の関連商品、サービスが開発されているが、最近そのものズバリのSexから、目、耳を通じての脳セックスが注目を浴びている。新宿に開店した「5ドアーズ」は、ノーパン喫茶、ヌードスタジオをはじめ5色のお楽しみがあるという、Sexに関する欲望デパートとも言うべきもの。「興奮させて、ハイ、サヨウナラでは申しわけない」と、コンピューターでSexの穴場を教えてくれる情報サービスもある……



(注) 上図は、外出時の支出項目と、それを行った人の平均支出金額を示している。

男の外出

Service 3,051円(買物) 7,109円、8,840円(行楽)

(財)余暇開発センターが昨年12月、全国の5万人以上の都市の2千世帯の主婦を対象に、初めて「ファミリーレジャー」の実態を調べた。この結果、昨年1年間に家族と一緒に行動をとりにしたレジャーの過ごし方は意外につつましく、その上位5つをあげてみると ①ショッピング ②外食 ③運動会(スポーツ) ④散歩 ⑤ドライブの順となっている。ほとんどが夫婦と子供の「核家族型」で、たまの休日に日帰りの行楽や外食に家族そろって出るのが唯一のファミリーレジャーという家族も多い。たまの休日ぐらい、自分の好きなことをしたい、ゆっくり休養したいとはいっても、家族の喜ぶ顔がみたいばかりに、無理してでも出かけていく家族サービスの外出ウェイトは大。

さて、この外出、どのサイフから金が出ていくのだろうか。都内デパートの大食堂で聞いてみた。「ご家族でいらっしゃいますと、お食事の他に必ず、子供さんにジュースかアイスクリーム、ご主人はビール(小瓶)を1本、遠慮がちに注文されま



す」。支払いは? 「そうですね。8割は奥様が払ってますね。ご主人は後で見ていら

れます。ご主人が払われるのは2割あるかないかですね」とのこと。今回の調査でも、こづかいから家族のみやげものを買った人71%、家族の外食費を払った人36%、家族レジャー費を払った人18%と金額の大きいものは家計費から支払われているが、男のこづかいからの支出も見逃せない。



Gamble 3,300円

不況に強いと言われてきた「一獲千金」の夢見産業も昨年あたりから伸び悩んできている。こづかいが厳しいからこそ、なんとかギャンブルで一獲千金と夢を描くものの、その資金も不足がちになってきているようだ。それでも、男の4割が月平均6,241円のギャンブル支出をしている。

一方、気になるギャンブル収支だが、もっとも手軽に行われているパチンコの場合、約3割の男性が月平均3,547円の支出を行っている。これに対する回収率(パチンコ支出に対して景品として回収される割合)について、パチンコ業界の専門誌アドサークルの坂本氏は調査の結果から、平均で35%、元手以上に稼ぐ人は2%弱だという。所詮、ギャンブルは儲からないように出来ているようだ。ギャンブルは孤独な遊び、他のコミュニケーションレジャーのように周辺市場拡大には寄与しない?



男のこづかい成熟度

82年6月15日付、生活新聞「サラリーマン進路指導」を憶えておいてだろうか。生活の中で、仕事、家庭交際、自分という4つの側面のどこに重点を置いているかで、サラリーマンを7つのタイプに分けたものである。

今回は、こづかいの使い方という面から、サラリーマンの生態を観察してみたが、その結果、前回と同様に、こづかいの使い方にもそれぞれの特徴をみることができた。

自分自身の内面充実(自己充実)のためにこづかいを使う人、ただ食べて、会社の同僚と酒を飲むだけでこづかいの消える人。人、様々である。

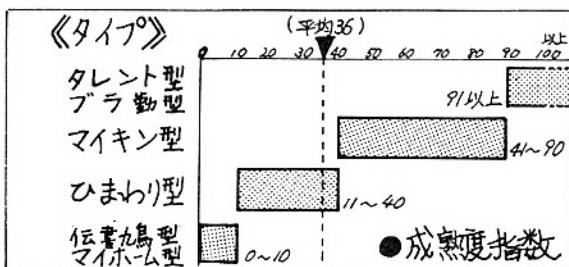
ここでは、こづかいの使い方、そ

の成熟度という視点から、人々を4つのグループに分け、先の新聞で論じた7タイプのサラリーマン(伝書鳩、ひまわり、タレント、マイキン、マイホーム、

箱庭、ブラ勤。但し、今回は、箱庭型は除いた)が各々どのように対応するかを示している。

さて、あなた自身の自己診断法であるが、次式に、あなたのこづかい<計算式>

$$\text{成熟度指数} = \frac{\text{レジャー・教養・娯楽費(家族レジャー費は除く)} + \text{図書資料費}}{\text{自分1人で行った飲食費} + \text{交通通信費} + \text{交際費} + \text{タバコ代}} \times 100$$



金額を当てはめ、あなた自身の指数を計算してほしい。それによって、あなた自身のこづかいの使い方成熟度、どのタイプのサラリーマンなのか明らかにするはずだ。

女のこづかい自立度

奥さんのこづかいは、自立に向って4段階のタイプがある。それは、あたかも植民地が独立国に至るまでにたどるプロセスによく似ている。

タイプ1(コロニー期) 家庭収入に占めるこづかいが0~1.7%の段階。このタイプは、自分のこづかいと家計が分離されず、こづかいが家計(宗主国)の庇護の元にある。支出の内容も、たまの買物でバスに乗り、お茶を飲むぐらいで、能動的に自分のためにこづかいを使いたいという勢いをもっていない。

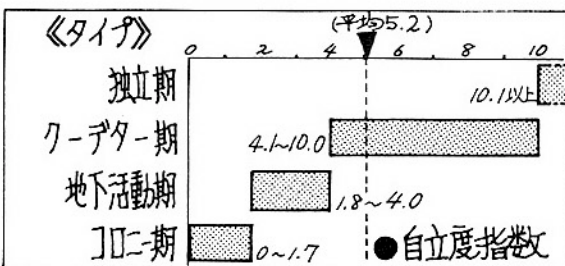
タイプ2(地下活動期) 収入に占めるこづかいが1.8%~4.0%の段階。家計費とは別に、自分のこづかいで、子供とレストランで食事をしたり、自分のための小物を買った

りする。この段階になると、他国(友人)の状況に触れる場面が多くなり、もっと積極的に行動したい衝動が起きてくる。

タイプ3(ク

レーター期) 収入に占めるこづかいが、4.1%~10%の段階。稽古ごと、交際、美容、レジャーへの支出が増えてくる段階だ。さらに自分のための支出を増やすためにパート等で収入増をはかったりして、独立に向って進もうとする。宗主国(ご主人、家計)との軋轢も増大する場合も多い時期だ。

タイプ4(独立期) 収入に占め



るこづかいが10.1%以上の段階。こまてくると、立派な「独立こづかい」だ。高級レストランでの友人との食事やゴルフ、美容、旅行などの高額支出も、こづかい(大づかい?)でまかなわれる。当然、このタイプには夫の収入以外に自分の収入を得ている人が多い。女性の自立は、家計におけるこづかいの自立度に大いに関係しているようだ。

編集ホンネ

くらしの場面の切り口は、いく通りもあります。今回は、ひとびとの個性が直接反映されている「こづかい」というミクロの世界にアプローチ。何げなく使われているこづかいの中にも、新しい商売のヒントがいろいろありそうです。